

令和5年度 神石高原町立油木小学校 学校評価自己評価表

学校教育目標			気づき 考え 行動する		達成度＝達成値÷目標値×100 評価 A：目標以上 B：達成度が目標の80%以上100%未満 C：達成度が目標の60%以上80%未満 D：達成度が目標の60%未満							
ミッション	中期経営目標	短期目標	具体的行動目標と手だて	評価指標 (評価項目・目標数値)	9月	9月	中間 評価	2月	2月	最終 評価	評価結果と課題の説明(中間)	評価結果と課題の説明(最終)
					達成値	達成度		達成値	達成度			
地域と共にある 明日も行きたい 通わせたい学校	「わかった」「できた」がある授業を通して、自ら学ぼうとする意欲や学習習慣を育てる	ユニバーサルデザインの考え方を踏まえた授業を実践し学力向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援プロジェクト校の研修等を通して、ユニバーサルデザインの考え方への理解を深める。 複式授業の確立、つまずき等に対する個別の学習支援、学び方の基礎基本の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎学期、学期末テスト(国・算)の到達度を超える児童を70%以上にする。 標準学力調査において、全国平均を超える児童を国語60%、算数70%以上にする。 	75%	107%	A	テスト77%	テスト110%	A	<p>学期末テストで評価を行った。国語は、到達度を超えた児童の割合が、知識：87%、思考：68%で達成値は77%であった。</p> <p>算数は、到達度を超えた児童の割合が、知識：80%、思考：68%で達成値は74%であった。</p> <p>知識は国語・算数ともに目標を上回ったが、思考・判断では国語・算数ともに目標を下回った。</p> <p>そこで、国語は文章を繰り返し読む習慣をつける。キーワードになる言葉を見つける視点を示す。</p> <p>算数は、図や式を用いたり、操作したりしながら自分の考えを言葉で説明させる。</p>	<p>二学期末テストと標準学力調査で評価を行った。二学期末テストでは、国語は、到達度を超えた児童の割合が、知識：85%、思考：89%で達成値は87%であった。</p> <p>算数は、到達度を超えた児童の割合が、知識：85%、思考：48%で達成値は67%であった。</p> <p>国語は、知識・思考ともに目標を上回ったが、算数は思考が目標を下回った。また、国語の知識、算数の思考が一学期の結果を下回った。国語については、文章を繰り返し読む、言葉に着目して考えることが学力の定着に繋がった。一方で、算数では、考えを言葉で説明する、児童同士で繰り返し合うといった学習を増やし、思考する時間を多く取るようにする。</p> <p>標準学力調査では、国語は、全国平均を超える児童の割合が、知識：81%、思考：58%で達成値は70%であった。</p> <p>算数は、全国平均を超える児童の割合が、知識：88%、思考：67%で達成値は78%であった。</p> <p>知識は国語・算数ともに目標を上回ったが、思考では国語・算数ともに目標を下回った。国語・算数ともに多数の資料の中から必要な情報を選び出して考える問題に慣れる必要があると考える。また、算数では四則計算を解く速さを鍛えていく。さらに国語では、来年度は全校で作文指導に取り組む。</p>
	地域での学習や体験活動により、地域貢献意欲を高め、故郷への愛着や誇りを育てる	地域を題材とした学習や体験活動を推進する ・生活科 ・総合的な学習の時間 ・行事等(本物体験)	<ul style="list-style-type: none"> 地域の文化、伝統、産業、魅力について、興味関心に基づいた課題設定を行い、探究的な学びを進める。 地域資源を活用した多様な体験活動を設定し、人、文化、自然に触れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 5、6年生の児童アンケートで、肯定的回答を80%以上にする。 ・「地域のために自分のできることをしたい」 ・「地域の課題やよさに気付くことができた」 3、4年生の児童アンケートで、肯定的回答を80%以上にする。 ・「地域のことが好き」 ・「地域のことを大切にしたい」 1、2年生の児童は、地域のすてきを5つ以上言える児童を80%以上にする。 	88.2% 93.3%	101.4%	A	68.8% 81.3%	110.9%	A	<p>5・6年生、3・4年生は、総合的な学習の時間において地域学習などを行った際に、地域の方と関わったり、実際に地域の様々な場所に行ったりしたことで、地域への関心や理解が深まった。</p> <p>1・2年生は、生活科において地域に出て、地域にどのようなものがあるかは知ることができたが、これからは、体験的な学習等を通して、地域のよいところにつづくなど学習を深めていく必要がある。</p>	<p>5・6年生は、地域の実情への理解が深まったことで、課題の大きさに気づき、その解決方法をより具体的に考えられるようになり、「本当に地域のためになることはなんだろう。」と悩んでいる。</p> <p>3・4年生は、地域の行事に参加したことで、地域と関わることのよさを実感することができた。</p> <p>1・2年生は、地域に出て体験活動を行った後に写真で振り返ったり、感想を書いたりして地域の素敵などところを意識することができるようになった。</p>
	変化や失敗に柔軟に対応できる、しなやかな心と健やかな体を育てる	良好な人間関係づくりを通して、非認知能力を高める	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導の三機能を活かした教育活動を充実させる。(教育活動全般において、自己存在感を与える場、自己決定の場、共感的人間関係を活かした活動をする。) 異年齢交流や体育的行事、全校レク等を通して、同じ目標に向け協力し合う心を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの肯定的回答を90%以上にする。 「自分はまわりの人から認められている」 「自分の行動は自分で決めている」 「相手の気持ちを大切にしている」 「友達と協力しようと思う」 「新しいことに挑戦しようと思う」 「困ったことがあっても、乗り越えている」 「何事も最後までやり抜くことができる」 	75% 75% 90.6% 90.6% 93.8% 84.4% 78.1%	93.2%	B	81.3% 87.5% 93.8% 93.8% 90.6% 84.4% 75.0%	96.2%	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート結果より、「新しいことに挑戦しようと思う」の項目が一番肯定的な意見が多い。また「相手の気持ちを大切にしている」、「友達と協力しようと思う」の項目も90%以上の数値であった。行事ごとに新しい取組を取り入れることによって、児童が積極的に参加し、新しい挑戦への意欲が高まってきているのではないかと感じる。 一方2項目では、前期と比べ数値が下がりが、1項目は数値に変化がなかった。下半期は行事が少ないため、自分の挑戦できる機会が少ないと考えた児童や、「もうやりきった」と思っている児童がいると考えられる。また新しいことに挑戦しているが、自己評価の低い児童があり、挑戦した気持ちになりにくいことも考えられる。来年度は、自分の得意分野で活躍できる場を設け、やりたい人が集まった「プロジェクトチーム」を立ち上げたい。年間を通して、どんな行事があるのか、どこで挑戦する機会があるか見通しを示し、自己決定させることで自分から挑戦する児童が増やしたい。 	
	働き方改革と人材育成を推進し、ワーク・ライフ・バランスとウェルビーイングを実現する	ワーク・ライフ・バランスを大切に作る職場風土をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 一斉定時退校日を設定する。(毎週水曜日は17時15分退校) 学校衛生委員会を計画的に実施し、教職員の状況を把握し、個別面談を行う。 全職員で児童の様子を共有することで、児童の成長をみんなで喜び、対応は組織的に行う。 公私ともに気になることなどは、いつでも相談できるよう、ほっと一息タイムを設定する 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員アンケートの肯定的評価を80%以上にする。(5段階評価) 「仕事にやりがいを感じる」 「働きやすい職場である」 「自分は心身ともに健康である」 「自分はワーク・ライフ・バランスを大切にしている」 「困ったとき・悩んだときに相談できる人がいる」 	100% 91% 73% 82%	111%	A	100% 100% 83% 100%	121%	A	<p>教職員アンケート(12名 5段階評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 4項目において肯定的評価が100%であった。1項目も前回よりも10ポイントアップしている。職員間で児童の姿の話や相談ができやすい雰囲気であるからだと考える。また、感じたことや気になったことも声に出しやすい雰囲気であるため一人で抱え込むことが少ないことも働きやすさややりがいにつながっていると考える。引き続き、気づきを声に出せる関係を大切にし、学校としての対応を進める。 教職員の8月末までの1ヶ月の超過勤務時間の平均は、49時間28分で、45時間を超えた教職員の平均は5人である。超過勤務時間が多くなることが心身の疲れにつながっていると思われる。今後さらに時間を意識して仕事ができるよう声をかけ合い、ワーク・ライフ・バランスが実現でき、ウェルビーイングにつながるよう推進していく。 <p>教職員アンケート(12名 5段階評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 5項目の平均でみると、目標を大きく上回っているが、「自分は心身ともに健康である」の項目は目標値を下回っている。児童の姿や成長の話や相談など教職員間で話しやすい職場の雰囲気が働きやすさにつながっていると思われる。引き続き、対話を大切にして学校として取組を進めていく。 	